

令和7年度 第1回岡山県立図書館協議会

日 時：令和7年9月3日（水） 14：00～16：00

場 所：岡山県立図書館 多目的ホール

出席者 ○委員：秋山委員、高野委員、近藤委員、関委員、平井委員、本藤委員、森田委員、山口委員、湯澤委員

○県立図書館：大西館長、笠原副館長、藤原総括参事（総務・メディア課長）、松本総括参事（図書館振興課長）、隈元資料情報課長、神田サービス第一課長、鳥越サービス第二課長、井関総括副参事（企画・メディア班長）、小櫻司書

○県教育庁生涯学習課：西尾総括副参事（企画推進班長）、井上主幹

欠席者 ○工藤委員

1 開会

2 開会挨拶 県立図書館 大西館長 挨拶

3 資料確認

4 協議・報告

(1) 岡山県立図書館第4次中期サービス目標について

①サービス目標の概要 資料1

②令和6年度の評価 資料2

資料に基づき、事務局から説明

【委員】

県立図書館としての本領は、県内市町村立図書館への支援と、レファレンスサービスのような調査要求に応えることだと思う。第5次中期サービス目標に関して、行政支援や県議会も含めた議員への情報提供、支援活動をアピールしていった方がいいのではないかな。それに対応した資料や情報の収集、提供、レファレンスサービスというのを明示していく必要がある。第4次中期サービス目標の中では必ずしも明確ではなかった。

【事務局】

県域の中核としての図書館として、市町村図書館や学校図書館をしっかり支えていくことは県立図書館の大きな役割である。昨年度もご協議いただいてオカリブビジョンを作り、市町村担当者制を始めたり、学校図書館とももっと連携を深めていくような方向に舵を切っているところである。

【委員】

昨年度休館日を4日増やした背景を教えてください。

中高生に自習室を提供したということだが、結果はどうだったか。

電子書籍について、近隣の県を調べて情報収集を行ったということだが、その結果を教えてください。

【事務局】

休館日を増やしたことについては、シフトを組んで運営している中で、職員同士でコミュニケーションを持つ時間が取れないということが大きな課題だったので、休館日を増やすと来館者、貸出が減るというリスクもあるが、質のいいサービスを担保していくためには職員間のコミュニケーションという部分はおろそかにできないと考え、各課、班の単位でしっかりコミュニケーションをとる時間を作るということで運用している。

自習室の利用については、平日はそれほど多くないが、夏休み・冬休み中は多い。今年度の夏休みも、お盆期間中は一日30名近くの利用があった。

電子書籍については、費用の問題もあるが、導入しないという選択肢は考えにくい。他県等の電子書籍の利用状況を見ると、それほど多く利用されているという状況はあまり見えてこないなので、小さく始めて、様子を窺いながら進めていくという方法もある。読書バリアフリーなどいろいろな観点からの活用があるので、まずは、どういうパターンで導入するのがよいか検討しながら、できるだけ早期に導入できるよう努力しているところである。

【委員】

新型コロナがあり学校ではGIGAスクールが進んだが、家庭学習時間が減って学力も明らかに下がっている。それだけでなく、運動・体力のデータも令和元年頃から下がったまま回復していない。子どもの発達に新型コロナはかなりダメージを与えた。図書館に来る人も減っていると思うので、未利用者の人たちがまず一步図書館へ足を運ぶよう引き続き取り組んでほしい。図書館活用ガイドやBeLive、PBLフォーラムなど積極的にやってくれている。来ればサービスのすごさがわかるので、その取組を今まで以上に頑張ってもらいたい。

小学生が見学に来ているが、コロナの頃より小学生がリピートして足を運ぶ機会は増えているのか。また、PBLやBeLiveをアピールしたいということだが、その手ごたえや改善点があれば教えてほしい。

【事務局】

GIGAスクールは進んだが、図書資料を活用して探究を深めていくという活動は低調という声もあり、県立図書館として学校に一步踏み込んででもやっていった方がいいと考え、活用ガイドを作って提供したり、BeLiveにも参加するようになった。図書館のよさを教員がわからないと生徒に広がらないので、教員への働きかけを強化しており、今年度は初任者研修で講座をさせてもらい、総合や探究の担当者の研修にも行くようにしている。

小学生の見学はたくさん来てくれているが、その後誰が来ているかは把握できないので、見学が利用に直接結びついているかは不明である。

【委員】

試験のとき記述を一切書かない、漢字が書けない、読み方がわからないという生徒が増えている。探究授業でも、調べ方がわからない、ネットで調べて出てこなかったらお手上げという生徒が多い。図書館は娯楽で本を読むところという印象があるが、図書館の機能的で実用的な面を中高生に伝えていかないと、ますます国語力が低下すると思う。使える図書館というアピールをしていく活動があればお伺いしたい。

【事務局】

本を読む、借りるというほかにも図書館の機能があるということはしっかりPRしていきたい。大学生にSNSの分析をしてもらったり情報発信のアイデアを出してもらったりしており、それを活用しながらどう展開していくか研究中である。

【委員】

県立図書館が県下の子どもたち全部に関わるのではなく、個々の学校の先生や学校の司書が、自分のところで連携をとりながらやるというのが基本的なやり方だと思う。

【委員】

学校では会計年度任用職員の司書も多く、正規の司書が会計年度任用職員のスキルアップを考えて研修の機会を設けるなど様々な取組をしているが、難しい状況である。

【事務局】

職員の配置は大きな問題だが、各自治体の問題でもあり、県でどうにかするというのは難しい。県においても全て正規化できているわけではない。ただ、全国的に見ても、会計年度任用職員を含め、有資格者を配置している率はかなり高い。

【委員】

県北でも図書館サービスの空白が生じないように、引き続き取り組んでほしい。市立図書館に行ったときに、県立図書館に行った方がスムーズだと感じることもある。県立図書館に行きづらい場所の図書館の充実のために助言などをしてほしい。

探究学習の授業では、クラスの2、3割の生徒が図書館を使う。図書館に行って知りたいという一定のニーズはあると思うが、利用方法がわからない。図書館をいかに使っていくかというのを、教員、更には教員養成の段階で知ることが、生徒の図書館の活用につながる。

【事務局】

市町村立図書館では、会計年度任用職員を中心に運営していると研修への参加が難しい状況がある。市町村立図書館職員の実習を受け入れる制度を今年度始めたので、市立図書館長から研修に行かせたいというようなお話も徐々にいただいている。県立としてはしっかり受け入れて、全体の底上げを図っていく必要があると考えている。

【委員】

学校でも公共図書館でも会計年度任用職員で業務を回しているところがある。司書が大事なのだというところを行政が忘れていないか。司書はスキルを持って学校や公共図書館で仕事ができるという面を押し出してPRしてほしい。

今年から始まった市町村担当者制度を早速活用しており、県立図書館の司書がスキルを発揮してくれている。こういうサービスを市町村が使えるというPRもしたらいいと思う。

住民の方の県立図書館への信頼度は非常に高い。ひとつひとつの地道な取組の積み重ねなので、中期サービス目標の中にもサービスをきっちりやるというところを出していたら、よいものになると思う。

【委員】

特別支援学校に通っている子どもにとって、図書館利用はハードルが高い。

特別支援学校の子供たちも校外学習で県立図書館を利用することができるのか。できるのであれば、それを学校は把握しているか。

【事務局】

特別支援学校の方も見学にきていただける。学校の先生が集まる会に行って、県立図書館が行っている障害のある方へのサービスを説明したり、特別支援学校に職員が出向いて、県立図書館ができる支援を説明したりもしている。遠慮なく来館していただきたい。

(2) 県内公共図書館の振興について

市町村立図書館の動向について 資料3

資料に基づき、事務局説明

意見なし

(3) 岡山県立図書館第5次中期サービス目標について 資料4

資料に基づき、事務局説明

【委員】

項目自体は良いと思うが、デジタルに関する記述がいろいろなところに入っていて、それが並び順で上位の方に来ると、人間味がないように思う。デジタルが充実するというのはある意味当然で、図書館を下支えするのはデジタルで、アクセシビリティを高めるのもデジタルだが、優先順位を考えると、もっと人の顔が見えるようなものが先に挙げると、受け手側へのメッセージが強いと思う。

【事務局】

優先順位は、今後サービス目標を詰めていく中で検討したい。オカリブビジョンのときには取組のアイデアを自由に書かせていただいたが、中期サービス目標になったときにはいろいろな制約がかかってくることもあり、その中で、どういう立ち位置でいくのがいいかというのは、再度しっかり検討したい。

【委員】

県立図書館の役割は、蔵書・情報・資料や、人的な資源、ノウハウなどを県民に還元していくことと、市町村や学校のネットワークの中核としての機能の二つであり、ネットワークのハブとしての機能がよりよくわかるような形になるといいと思う。

本の価格が上がっている中で、専門書や学術書、郷土資料も、県立図書館がしっかり収集する使命があると思う。そういうことをぜひ堂々と述べて、引き続き蔵書数や貸出数を大切にしていきたい。

【委員】

デジタル技術に関する記述については、こういう技術でバリアを取り除いていきますという意味で書いていると思うので、ちょっと文言を変えればよいと思う。

オカリブビジョンのイラストで、車椅子の人がそっぽを向いているのが気になった。

【委員】

サービス目標は、県民に対して私たちはこういうことを目指しますという姿勢を見せるとともに、行政職員や議員に対してある程度アピールし、自分にとっても役に立つというのをわかってもらわなくてはいけない。県職員に対するアンケートの中で、1位の要求が専門書をおいてほしいということだった。一般には買えないような本を置いてほしいというのは、やはり県立図書館に対する期待があるのではないか。仕事に役立つような情報提供や資料提供をしてほしいということだと思うので、県立図書館は県政や議員活動にも役立つということが項目として一つあるといいのではないか。自分たちに役立つという感覚を持ってもらわないと、予算的なことも含めてなかなか一歩前へ進まないと思うので、ぜひとも行政支援や議員活動支援というのを意識して、特にレファレンスなどのところに入れていただけることを期待する。

【委員】

オカリブビジョンのピンクの背景に赤い文字のところは、色覚多様性により読みにくい場合があるのではないかと思う。

(4) その他

第2期読書バリアフリー計画の策定について 資料5

資料に基づき、生涯学習課説明

【委員】

図書館という場所は、現在特別支援学校に通っている子どもたちだけでなく、社会に出たときに余暇を過ごす場所としてもとても大事な場所になる。利用するまでの過程がまだまだ浸透していないので、幼少期から図書館というものを知ることが大事である。親も子どもの余暇の過ごし方を悩んでいるところがあり、そこに一つ図書館という場所があるのであれば、それを皆さんが知っていくことで利用できれば、保護者としてはありがたい。図書館では大きい声を出してはいけない、騒いではいけないということを一番に考え

てしまうので、なかなか利用に結びついていないという現実がある。図書館はまず行ってはいけない場所と考えている保護者もいるので、利用してもいいんだという理解が広まっていけばと思う。あまり情報が行き届いていないところがあるので、もっと保護者にも伝わればと思っている。

【委員】

対象者の人数が細かく書かれており、「これらの方の中にも対象者が含まれています」と書かれているが、「障害がある人が対象です」というのが、とてもきつい表現だと思う。しかも一人単位まで明示する必要があるのか。計画なので数字は必要なのだと思うが、他人事という感じがきつく出てくる。例えば、「岡山県立図書館における現状の利用者登録者は何人です、一方で、こういう人たちが対象です」と、逆にするだけでも大分柔らかくなるように感じる。

読書バリアフリーの考え方というのは、図書館に行けない人でも情報に触れられる、本が読めるというものであると同時に、中期サービス目標にもあるように、誰でも来ていい開かれた場所という図書館の方針もあって、この両方をアピールするのが難しいと思うが、なんとなくきつい印象がある。読んでいくと、後の方に高齢や病気や障害によって読むことができなくなることもあるということが出てくるが、誰もが本を読みづらくなる可能性があるという考え方がもっと頭の方にある方がよいという印象を受ける。

（その他意見・情報交換）

【委員】

他県で、県立図書館と教育委員会が連携して幼稚園・保育園に絵本を貸し出すという呼びかけをしたら、多数の応募があった。学校には学校図書館があるが、園ではそういうところもなく、マンパワーも少ないため、貸出が活用されている。

障害のある子どもさんや親御さんに対して、どういうサービスを提供することができるか、ニーズを聞いて提案するようなことも、そこまで丁寧にとというのは人手が足りないということもあるかもしれないが、小さいうちから本に慣れているということは必要だと思う。

【委員】

オカリブビジョンにある取組のアイデアに関して、書店で、同人誌、ZINEを持ち込んで飾って、販売したりしていて、そういうのも図書館でできたらいいと思っているが、こういうカジュアルなアイデアや企画を提案してもよいのか。

【事務局】

そういったカジュアルなものも含めて提案を受け付けたい。